

2021年度
賢明学院高等学校
入学試験

2021. 2. 10実施

国 語

(50分)

- ・ 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- ・ 字数制限があるすべての設問において、句読点など文章記号は字数にふくめます。
- ・ 問題文は、設問の都合上、一部省略・表記を改めたところがあります。

受 験 番 号

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

①お菓子というのは、ファッションや社交儀礼とおなじように、その土地の文化の精華のひとつです。それが精華になりえたのは、生きるために不可欠な食べ物ではないから、社会関係や文化の潤滑油・調整の道具として、余分なものとして付け加わったからです。だからお菓子は、地位や権力だけでなく、遊びやしやれっ気とも結びつくのです。

塩や水なしに人間は生きられません。だから塩や水をめぐっては、政治的・経済的な力がはたります。②それをはさんで、支配や隷属という関係が生まれるのです。たとえば、カール・ウィットフォーゲルというアメリカの中国研究者は、水を治めること、すなわち灌漑・水利こそが、センセイ主義的な国家の起源だと述べています。また「塩税」はどこでもありふれたものでしたし、ローマ時代には、役人や軍人に支給される俸給として、塩が用いられたこともあります。【A】

しかし、甘味料つまり砂糖は、香辛料とおなじように、生きるために必要というわけではありません。それはむしろより、良く、生きるために必要なものです。だから、甘いもの、そしてお菓子は、さしあたり、政治的・経済的な支配ではなく、文化的な支配の力関係のなかに取り込まれることになりました。文化的な価値であるがゆえに、人々は甘いものに夢中になるのです。そのことをまず押さえておきましょう。

それから、ケーキ(フランス語でガトー)にせよ、チョコレート(シヨコラ)にせよ、アイスクリーム(グラス)にせよ、甘いものは、肉やご飯のように主菜・主食として食べられるわけではなく、食間のおやつとか食後のデザートといった、食事体系のすみっこに追いやられています。おやつもデザートも、なくてもよいようなものですが、ないと寂しいとか、物足りないとか、楽しさが欠けるとか、そんな思いになるでしょう。まさに③を欠くのです。またお母さんとの、あるいは恋人・友人や家族との、特別な「思い出」につながっているお菓子も、少なくないでしょう。

すみっこにある余分なものだからこそ、お菓子には、生活に甘美なうるおいを与え、幸せな感興をわきおこす不思議な力があるのですし、また、そうした力を発揮させるような多様な工夫が、たえず加えられつづけてきたのです。【B】

そしてこの「余分なもの」を、いかに丹精込めてつくりあげ大切にすることが、文化の質を測るひとつの基準となるのではないのでしょうか。しかも驚くべきことに、歴史を遡ってみると、洗練されたお菓子たちは、いつでも文明の伝播ルートを忠実に伝って、文明度の高いところから低いところへ、東から西へ、西から東へと、各地に甘い夢を運んできたのです。

お菓子は、民族学でいう「ハレ」(非日常的なもの)と「ケ」(日常的なもの)という区分では、古代から長らく「一」の食べ物でしたし、現在でも、そのなごりがあります。クリスマスケーキ、ウエディングケーキ、タンジヨウ祝いのケーキ、復活祭などの祭日のお菓子などがそれですし、日本でも、ちまき、柏餅、ひし餅などが思い浮かび、東西両世界の符合に驚くことでしょう。最近では、バレンタインデーのチョコレートもそうかもしれませんね。【C】

また、こうした「二」の食べ物であるお菓子は、「贈り物」「プレゼント」「手みやげ」になります。誰にでも悦ばれますし、干菓子なら保存がきくので便利です。

さらに、お菓子は「装飾」がとことん可能で、それが許されています。④お菓子ほど建築や芸術に近い食べ物はありません。いくら芸術的でも、それは一種の「まがいもの」で、すぐに壊され、食べられてしまうものではありませんが、他の食べ物ではあまり許されない、けばけばしい色彩やゴテゴテした飾り立てが可能なお菓子は、「洗練」や「三」といった感覚と親和的で、また「都会性」という価値が重要になってきます。田舎菓子も悪くはないのですが、高貴さや贅沢、洗練という立場からは価値が下がります。この最後の点は、西洋菓子とりわけフランス菓子の真骨頂といえるかもしれません。【D】

しかも、お菓子はもうひとつ優れた特徴をもっています。王侯貴族のような豪華な館や、華美な衣服、このうえない贅沢な食事は、庶民にとっても手が届きません。しかし最高級の贅沢な「お菓子」なら、誰にでも、少なくともたまには手に入ります。そうです、「お菓子」という食卓の小さな宝石は、誰でも口にすることができるところがミソなのです。最高の贅沢品でありつつ、誰にでも開かれた民主的な食べ物、こんなステキな食べ物は、ほかにありません。

(池上俊一『お菓子でたどるフランス史』より)

問一 二重傍線部 a～d の片仮名を漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「お菓子」というのは、その土地の文化の精華のひとつです」とありますが、お菓子がその土地の文化の精華のひとつになるとはどういうことですか。筆者の考えが示されている本文を用いて、七十字以内で簡潔に説明しなさい。

問三 傍線部②「それ」とは何を指していますか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問四 次の一文を入れるのに最も適当な箇所を本文【A】～【D】の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あたかも、労働と対立する余分なものである遊びが、単調な生活に張りを与え、生きる喜びをもたらしてくれるようにです。

問五 空欄③に入る四字熟語として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一陽来復 イ 画竜点睛 ウ 当意即妙 エ 完全無欠

問六 空欄「く」目に入る語として最も適当な組み合わせを次のア～クの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	【 一ケ	□ケ	≡ 繊細	【	オ	【 一ケ	□ケ	≡ 素朴	【
イ	【 一ケ	□ハレ	≡ 素朴	【	カ	【 一ケ	□ハレ	≡ 繊細	【
ウ	【 一ハレ	□ハレ	≡ 繊細	【	キ	【 一ハレ	□ハレ	≡ 素朴	【
エ	【 一ハレ	□ケ	≡ 素朴	【	ク	【 一ハレ	□ケ	≡ 繊細	【

問七 傍線部④「お菓子ほど建築や芸術に近い食べ物はありません」とありますが、建築や芸術とは異なる、筆者が評価しているお菓子の特徴は何かですか。解答欄に続くように十八字で本文中から抜き出しなさい。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昭和二十三年八月。浩太は、鍛冶職人の老人六郎のもとに、毎日通うようになった。六郎の仕事を見るうちに、浩太は中学に進学せずに鍛冶屋になる思いを強めていく。そんな浩太に困った母親と担任の先生は、鍛冶屋になることをあきらめるよう、六郎に説得を頼むこととした。しかし、よい考えの浮かばない六郎は、かつて自分の親方にされたのと同じ話を同じ場所でしてみようと、浩太を誘って登山に出かけたのだった。

昼食を終えて二人は岩の上で少し昼寝をした。

六郎は眠れなかった。胸元で浩太の①寝息が聞こえた。

六郎の胸の上に浩太の②ちいさな指がかかっている。いつかこの指が大人の男の指になるのだろうと思った。その時は自分はこの世にいない。浩太がどんな大人になるか見てみたい気がする。六郎は独りで生きてきたことを少し。コウカイした。

——いや、そのかわりにこの子に逢えた。

親方の言葉がまた聞こえてきた。

『玉鋼と同じもんがおまえの身体の中にもある。玉鋼のようにいろんなもんが集まって一人前になるもんじゃ。鍛冶の仕事には何ひとつ無駄なものはない。とにかく丁寧に仕事をやっていけ』

親方の言葉が耳の底に響いた。

玉鋼は鋼の最上のものである。ちいさな砂鉄をひとつひとつ集めて玉鋼は生まれる。親方はちいさなものをおろそかにせずひとつひとつ集めたものが一番強いということを少年の六郎に言いつて聞かせた。その時は親方の話の意味がよくわからなかった。それが十年、二十年、三十年と続けて行くうちに理解できるようになった。一日一日も砂鉄のようなものだったのかもしれない……。

浩太が目覚ました。

「浩太、鋼は何からできるか知つとるや」

「鉄鉱石」

「そうじゃ。他には」

浩太が③首をかしげた。

「ならそれを見せてやろう。靴を脱いで裸足になれ」

六郎は浩太を連れて滝壺の脇の流れが緩やかな水に膝まで入り、底の砂を両手で掬い上げた。そうして④両手を器のようにして砂を洗い出した。浩太は六郎の大きな手の中の砂をのぞきこんでいる。やがて六郎の手の中にきらきらと光る粒が残った。六郎はその光る粒を指先につまんで浩太に見せた。

「これが砂鉄じゃ。この砂鉄を集めて火の中に入れてやると鋼ができる」

「ぼくにも見つけられますか」

「ああできるとも。やってみろ」

浩太はズボンが濡れるのもかまわず水の中から砂を掬い上げると両手の中で洗うようにした。浩太のちいさな手に砂鉄が数粒残った。

「あった、あった。砂鉄があった」

浩太が嬉しそうに声を上げ、六郎を見返した。

「それは真砂砂鉄と言う一等上等な砂鉄じゃ。このあたりにしかない。※₁かなやごさんがこの土地に下さったもんじゃ。その砂鉄をあつて、これだけの玉鋼ができる」

六郎は先刻まで二人が座っていた大岩を指さし、⑤両手で鋼の大きさを教えた。

「あの岩ほど集めて、それだけの鋼しかとれないんですか」

「そうじゃ。そのかわり鋼を鍛えて刀に仕上げればどんなものより強い刀ができる。どんなに強い刀も、この砂鉄の一粒が生んじろ」
 「なら砂鉄が一番大事なものですね」

「そうじゃ。砂鉄は^⑥ひとつひとつはちいさいが集まれば大きな力になる。この砂鉄と同じもんが、浩太の身体の中にある」
 「ぼくの身体の中に……」

「どんなに大変そうに見えるもんでも、今はすぐにできんでもひとつひとつ丁寧に集めていけばいつか必ずできるようになる。わしの^A親方がそう言うた」

「ぼくも、ぼくの親方のようにいつかなれるんですね」

「……」

六郎は浩太の言葉に^⑦口ごもった。

「浩太、わしだけがおまえの^B親方ではない」

「どうしてですか。ぼくの^C親方はあなただけです。^D親方だけです」

浩太の顔が半べそをかきそうになっていた。六郎は浩太の頭を撫でた。

二人は滝を離れると、^{※2}青煙の^{中腹}まで登った。そこから中国山地の美しい^dチヨウボウをひとしきりながめて下山した。

登山口のバス停で二人は並んでバスを待った。六郎はバスのくる方角を見ていた。

「親方、今日はありがとうございます」

浩太がぼつりと言ってお辞儀をした。

「どうしたんじゃ急に、礼なぞ水臭い」

六郎はうつむいている浩太を見て、思い出したようにポケットの中を探った。そうしてちいさな石を浩太に差し出した。

「滝のそばで拾うた。みやげに持って行け」

それは鉄鉱石だった。浩太は石をじっと見ていた。

「いつかおまえが大きゆうなったら、この山をもう一度登るとええ。そんな時は誰かを連れて行って、あの滝を見せてやれ。山も滝もずっと待つてくれとる。きつとおまえは……」

六郎が言いかける前に浩太が六郎の胸に飛び込んできた。嗚咽^{おえつ}が聞こえた。しがみついた手が震えていた。オ、ヤ、カ、タ……。途切れ途切りに声が聞こえた。

——この子は今日の山登りを何のためにしたのか、初めっからわかっていたのかもしれない。

そう思うと泣きじゃくる浩太の背中のおくらみがいとおしく思えた。

(伊集院静『親方と神様』より)

注 ※1 かなやごさん…鉄造りの神である金屋子神のこと。

※2 青煙…青煙峠。山の名。

問一 二重傍線部 a↘d の片仮名を漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「寝息」、②「ちいさな」の品詞名を次のア↘カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 副詞 カ 連体詞

問三 傍線部③「首をかしげた」ときの浩太の気持ちとして、最も適当なものを次のア↘エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ばかにされてくやしい気持ち。

イ 未知との出合いを喜ぶ気持ち。

ウ 答えられなくて恥ずかしい気持ち。

エ 他に思いつかず不思議に思う気持ち。

問四 傍線部④「両手を器のようにして砂を洗い出した」のは、何のためか。本文中の言葉を用いて、十字以内で答えなさい。

問五 傍線部⑤「両手で鋼の大きさを教えた」ときの、手の動きとして最も適当なものを次のア↘エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 両腕を伸ばして大きく動かす。

イ さやから刀を抜くように動かす。

ウ 手に鋼をささげるように両手を天にあげる。

エ 体積を表すように手のひら同士を近づける。

問六 傍線部⑥「ひとつひとつはちいさいが集まれば大きな力になる」と同じ内容の部分を本文中から、三十字で抜き出して答えなさい。

問七 波線部 A～D 「親方」の中で、六郎のことを指しているものはどれか。A～Dの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問八 傍線部⑦「口ごもった」のはなぜか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 浩太は周囲に反対され、鍛冶屋になれる可能性が低いだろうから。

イ 浩太のことを大人になるまで見守ってやれないことを思い出したから。

ウ 浩太が予想外にうれしいことを言ってくれて、思わず照れてしまったから。

エ 浩太は慕ってくれているが、自分はそれほど立派な人間ではないと思っっているから。

問九 本文中の表現として適当でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 手が小さいという描写から、浩太がまだ幼い少年であることを表している。

イ 現在の会話を「」で表し、過去の会話は『』で表すことで、回想場面であることを示している。

ウ 「――」の後に、六郎が考えたことを書くことで、口には出さない浩太への思いが表現されている。

エ バス停は、未来への出発地であり、今後も二人が共に人生を歩んでいけることを暗示している。

【三】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、^A唐に、^B孔子、道^①を^②行き給ふに、八つばかりなる童^{あひぬ}。孔子に^③問ひ申すやう、「日の入る所と^{※1}洛陽と、^④いづれか遠き」と。

孔子いらへ給ふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し」。童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば日の出づる所は近し。洛陽は遠しと思ふ」と申しければ、^C孔子、かしこき童なりと感じ給ひける。「孔子にはかく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただ者にはあらぬなりけり」とぞ人いひ（D）。

（『宇治拾遺物語』より）

注 ※1 洛陽 … 中国周代の首都。

問一 二重傍線部 a 「あひぬ」 b 「いづれ」 c 「申すやう」の読みを、全てひらがなの現代仮名遣いで答えなさい。

問二 傍線部①「行き」②「問ひ申す」の主語は誰ですか。文中の語でそれぞれ答えなさい。

問三 傍線部 A 「唐」の読み方を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア てんじく イ もろこし ウ ほんちよう エ ほうらい

問四 傍線部 B 「孔子」の言動が載っている書物を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三国志演義 イ 水滸伝 ウ 西遊記 エ 論語

問五 傍線部 C 「孔子、かしこき童なりと感じ給ひける」とあるが、孔子は何に感心したのか。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 童の^{ずうずう}図々しい言動。

イ 童の核心を突く発言。

ウ 童の論理的な説明。

エ 童の小賢しい発想。

問六 空欄（D）に当てはまる語として適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア けら

イ けり

ウ ける

エ けれ

【四】次の資料A・B・Cを活用して、二十四節気が正しい順番になるように①～⑤に入る語句をそれぞれ答えなさい。
 ※二十四節気とは、旧暦（太陰太陽暦）で、季節を示すのに用いる語のことである。

「二十四節気」 立春・①・啓蟄・春分・清明・穀雨・立夏・小満・芒種・②・小暑・大暑・
 立秋・処暑・白露・③・寒露・霜降・④・小雪・⑤・冬至・小寒・大寒

資料A

寒露	草木におく露もことさら冷たく感じられるようになる。
夏至	北半球では一年で最も昼が長く、夜が短くなる。
小雪	寒風が吹き始め、山地には雪がちらつくようになる。
立冬	暦の上ではこの日から冬に入る。
大暑	一年で最も暑気が厳しい。
秋分	昼夜の時間がほぼ等しくなる。秋の彼岸の中日にあたる。
処暑	暑さも峠を越し、ようやく涼風が立ち始める。
小満	草木が茂って天地に満ちる。

資料B

冬	大寒	現在の1月20日ごろ。
春	立春	現在の2月4日ごろ。
	雨水	現在の2月19日ごろ。
	啓蟄	現在の3月6日ごろ。
	春分	現在の3月21日ごろ。
	清明	現在の4月5日ごろ。
夏	穀雨	現在の4月20日ごろ。
	立夏	現在の5月6日ごろ

資料C

生徒 「二十四節気で秋に区分されるものを教えてください。」
 先生 「寒露と処暑と霜降と立秋、それから白露。あと秋分ですね。」
 生徒 「その六つで全部ですか。」
 先生 「はい。順番はばらばらですが、この六つが秋に区分されていますよ。」
 生徒 「あと、この漢字の読み方を教えてください。」
 先生 「それはボウシュ（芒種）とケイチツ（啓蟄）と読みますね。」
 生徒 「芒種と小暑は、夏に区分されますか。」
 先生 「はい。」
 生徒 「大寒と大雪と冬至は、冬ですか。」
 先生 「はい、冬に区分されます。」

【五】次の各問いに答えなさい。

問一 ①～⑩の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 秋の味覚をマンキツする。 ② 天下ムソウの怪力。 ③ 船のカンパンで風に当たる。 ④ 戦争のギセイになる。
- ⑤ 高温タシツな国に行く。 ⑥ 害虫をゼツメツする。 ⑦ 麦のシュウカクの時期。 ⑧ 発言をテイセイする。
- ⑨ ジョウダンを言って笑わせる。 ⑩ 豪族のコフンを見学する。

問二 次の①・②は類義語、③・④は対義語が完成するように□に入る漢字一字を答えなさい。

- ① 突然 □ 突□ ② 応援 □ 援 □ ③ 儉約 ⇄ □ 費 □ ④ 保守 ⇄ □ 新

問三 次の①～⑤の四字熟語の□に当てはまる数を全て足して、算用数字で答えなさい。

- ① □里霧中 ② □束三文 ③ □舌八苦 ④ 千載□遇 ⑤ 傍目□目

問四 次の①・②のことわざと反対の意味をもつことわざを後のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 急せいては事を仕損ずる ② 君子危うきに近寄らず

- ア 君子は器ならず イ 泣き面に蜂 ウ 先んずれば人を制す エ 人を見たら泥棒と思え オ 虎穴に入らずんば虎子を得ず

問五 次の文はいくつの文節・単語からできていますか。それぞれ算用数字で答えなさい。

いつも穏やかな声で話す彼は、クラスのみんなから信頼されている。

問六 次の文の傍線部と同じ用法のものを後のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

この部屋は、僕だけのものではない。

- ア 腹痛で学校を休むことになった。 イ 祖父は、教員であった。
- ウ 大好きな自転車で通学できてうれしい。 エ 大好物があると知り、喜んで家に帰った。

問題は以上です